

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 造形活動を通して、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「企画力」「表現力」「コミュニケーション力」「企画力」「発信力」の育成
- 2 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成
- 3 美術・工芸・デザイン教育において、日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展を牽引

2 中期的目標

- 1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・コミュニケーション力」「企画力」「発信力」の育成
 - ① 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・コミュニケーション力」、「企画力」「発信力」の育成に取り組む。
 - ② 生徒全員が1人1台端末、ポータルサイト等を活用し、系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力の向上から発展的な学力の向上を図っていく。全HR教室のフロジエクタ、特別教室の大型フロジエクタを授業実践で活用することで、基礎的な学力の向上から発展的な学力の向上を図っていく。
 - ③ 全HR教室のフロジエクタ、特別教室の大型フロジエクタを授業実践で活用することで、基礎的な学力の向上から発展的な学力の向上を図っていく。
 - ④ 自己表現から自己表現ができる力を身に付けさせる。
 - ⑤ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員も指導力向上のために自己研鑽や研修参加に励み、魅力ある授業づくりに努める。
 - ⑥ 学校教員自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができる」、「授業内容に魅力を感じる」、「授業内容に魅力を感じる」を90%にする。
 - ⑦ 「発信力」の育成について、フロジエクタや1人1台端末等のICT機器を活用して、プレゼンテーションソフト等を用いた授業（教科・科目）を設定する。
 - ⑧ 言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えを発表し、お互いの考えを認め、尊重し合える場づくりをすべての授業（教科・科目）で設定する。
 - ⑨ 学校教員自己診断において「授業で自分の考えをまとめた」、「発表したりする機会がある」の肯定的回答（R2 83%、R3 90%、R4 91%）90%以上を維持する。
- 2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成
 - ① 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間を育成する。
 - ② 美術造形との生涯に渡るかわり方や大きな将来展望をさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一・大・専連協講座等の一層の充実を図る。
 - ③ 大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。また、住之江区に限らず大阪の地場産業・地域文化を学び、「ものづくりの街」「文化芸術の街」大阪を全国に発信できるように企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与え、生命を大切にすることを心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。また、地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。
 - ④ 高校生活をより充実させるために、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。また、高校生活全般において、きめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。
 - ⑤ 国立大学（美術系）や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、美術と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国立大学10名程度を含む四年制大学進学者数100名程度を維持していく。
 - ⑥ 進路指導の指標として、学校教員自己診断において「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答（R2 91%、R3 94%、R4 91%）「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている」の肯定的回答（R2 91%、R3 92%、R4 92%）、いずれも90%以上を維持していく。
 - ⑦ 造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、文化部への参加率100%以上を維持していく。また「高校展」「芸術祭」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品発表を継続していく。令和7年度においても現在の水準（美術の大阪府代表）を維持していく。学校教員自己診断において「高校展や芸術祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる」の肯定的回答（R2 89%、R3 91%、R4 91%）90%以上を維持する。
 - ⑧ 部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退学日」「ノー残業日」を確実に実施する。
- 3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割
 - ① 府立学校の専門造形高校、日本の専門造形高校として、全国の美術・工芸教育を牽引するセンター校としての役割を果たしていく。
 - ② 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門造形高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。
 - ③ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本の専門造形高校にふさわしい積極的な情報発信を行う。そのため必要な施設設備及び教員教員等のさらなる改善と充実を図る。
 - ④ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源（施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係）を有効に活用し、他校種研究団体とも連携して教員対象の研修会等を企画するなど、センター校として推進に努める。
 - ⑤ 国内内外の造形作品に触れる機会をつくることと、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。
 - ⑥ 校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。特に、海外の美術作品等を扱う企画展や大塚国際美術館等、国内で海外作品が鑑賞できる機会を増やし、世界の文化について考える機会をつついでいく。また、ICTを活用し、海外の学校と文化交流を図るなど専門造形高校ならではの活動について推進する。学校教員自己診断において「この学校には、他の学校にない特色がある」の肯定的回答（R2 99%、R3 99%、R4 99%）を、95%以上を維持する。また、「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」（R4新設61%）の肯定的回答を65%以上にする。

【学校教員自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教員自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]

学校運営協議会からの意見

--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	自己評価
1 造形活動を通して「確かな学力・表現力・フロンティア」を育成し、すべての教科で1人1人目標を達成し、少人数授業やICTを活用した授業の充実	(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な機器を活用した授業を展開して授業への興味・関心を高め、生徒の理解度向上を図る。また、「確かな学力・表現力・フロンティア」を育成し、すべての教科で1人1人目標を達成し、少人数授業やICTを活用した授業の充実	<p>1 造形活動に必要な幅広い知識・実力を身に付けるため、美技指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業を充実させる。</p> <p>2 造形活動に必要な幅広い知識・実力を身に付けるため、美技指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業を充実させる。</p> <p>3 造形活動に必要な幅広い知識・実力を身に付けるため、美技指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業を充実させる。</p>	<p>7 学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答を90%にする。[88%]</p> <p>1 1年生で実施する外部予入の結果について、1回目の到達目標に比へ2回目の到達目標を下げないようにする。[国教英計]</p> <p>1 学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[92%]</p> <p>「授業の内容や目的にICT機器を効果的に活用している。」の肯定的回答90%以上を維持する。[93%]</p> <p>1 学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したことがある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%]</p> <p>1 国内外の作品に触れる機会を設定回数や昨年並みに維持する。[9回]</p> <p>1 小中学校対象教員実技研修、PTA対象文化講座の実施（指導技術の向上）</p>
2 造形活動を通して「確かな学力・表現力・フロンティア」を育成し、すべての教科で1人1人目標を達成し、少人数授業やICTを活用した授業の充実	(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かして、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とパブリシティをもちた人間の育成 卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専進連携講座等の一層の充実	<p>1 美術・工芸・デザインとの生涯に渡るかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につなげる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専進連携講座等の一層の充実を図る。</p> <p>2 地域連携の促進 大阪の地場産業・地域文化の企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを感じさせる。</p>	<p>7 学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%]</p> <p>「地域（住之江区）や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答を、75%以上にする。[73%]</p> <p>1 卒業生による講演会『うちこそ先輩』を実施する。</p> <p>1 大学等による出前授業を実施する。</p> <p>1 画材業者による材料に関する講座を実施する。</p> <p>1 学校教育自己診断における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答90%以上を維持</p>

<p>3 美術・造形・工芸・デザイン教育の日本の現状と課題</p>	<p>(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割</p> <p>「全国美術高等学校協議会本部署」事務局として、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たす</p> <p>「日本一の専門造形高校」にふさわしい情報発信と施設備の充実</p> <p>美術教育の振興に貢献するため、本校の有効活用と他校種との連携、セクター校として推進</p> <p>工 造形作品に触れる機会を提供し国際交流</p>	<p>(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割</p> <p>「全国美術高等学校協議会本部署事務局」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしている</p> <p>「大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携、セクター校として推進</p> <p>工 国内外の造形作品にも触れる機会をつくるとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の推進を図る</p>	<p>3 美術・造形・工芸・デザイン教育の日本の現状と課題</p>
<p>府立港南造形高等学校</p>	<p>(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割</p> <p>「全国美術高等学校協議会本部署事務局」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしている</p> <p>「大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携、セクター校として推進</p> <p>工 国内外の造形作品にも触れる機会をつくるとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の推進を図る</p>	<p>(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割</p> <p>「全国美術高等学校協議会本部署事務局」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしている</p> <p>「大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携、セクター校として推進</p> <p>工 国内外の造形作品にも触れる機会をつくるとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の推進を図る</p>	<p>(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割</p> <p>「全国美術高等学校協議会本部署事務局」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしている</p> <p>「大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携、セクター校として推進</p> <p>工 国内外の造形作品にも触れる機会をつくるとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の推進を図る</p>